

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、粘り強さ
	・学校として大変な状況も多々あると思うが、学力向上や不登校の減少等、子どもたちのためにがんばってほしい。 ・中学校ボランティア活動等を通して、地域とのつながりを大切にする子ども達の成長が楽しみである。引き続き、地域との連携・協力をよろしく願いたい。	・小学校では、学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。 ・中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。 ・中学校における長期欠席の生徒は全体の9.9%である。（R5 全国平均 8.5%）	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる
			中学校区として統一した取組等	・発信・表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり ・相手・目的意識をもたせた特別活動の充実 ・図書館を含めた学習環境の整備

Ⅲ 自 校

ミッション
一人一人が自立し、社会に貢献できる人間の育成

学校教育目標
こころゆたかに、自ら伸びる

現 状
<児童> ・教職員の肯定的な声掛け、図工作品展や校内俳句表彰、校外活動での活躍の表彰などを通して、児童の自己肯定感は高まってきている。 ・2年生から6年生までの全学年において標準学力調査結果が全国平均を下回るなど、学力面において課題が大きい。
<授業> ・生活科及び総合的な学習の時間で身に付けさせたい力やICT機器活用能力の学年ごとのルーブリックを作成することができた。 ・1、3年の老人クラブとの交流、2年生町たんけん、6年の春日のまちづくりについての提案など、地域とのつながりを深める学習が広がりを見せ、次年度導入予定のコミュニティースクールに向けて検討材料ができつつある。 ・学力向上をどのようにして進めるが大きな課題であり、定着度が低い児童へフォローの仕組みづくりを行う必要がある。

育成する力 脂質・能力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	ねばり強さ	
めざす 子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。
	中学年	自ら問いを見つけ、既習内容や方法で解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	目標を持って最後までやり抜くことができる。
	高学年	自ら問いを見つけ、見通しを持って調べたり、考えたりしながら、解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。

研究	テーマ	「わかる」「できる」「もっとやりたい」と子どもが学習にのめりこみ、確かな学力をつける授業づくり
	内容等	・児童の実態を踏まえた単元、授業づくり ・教職員が、自己課題をもって取り組む授業研究
めざす授業の姿		・「わかる」「できる」「もっとやりたい」と実感する授業 ・考えをもたせるための見通し、自力解決が充実した授業 ・思考過程を図や言葉で表現し、学びを深める授業

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立春日小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
1	学力の向 上	★	継 続	・自ら学ぼう とする意欲を 育む。	・児童の思考の流 れに沿い、主体的 に学びに向かう単 元開発を行う。	・国語・算数の次 の授業が楽しみだ と感じる児童を 80%以上								
		★	継 続	・国語科・算数 科において学 力の定着を図 る授業づくり を行う。	・自分の思考過程 を式と図・言葉を 対応させながら表 現させる。 ・週1回放課後の 補習学習を行う。	・春日っ子検定 (算数：基礎問題 ＋思考力を問う問 題)において、前回 より得点が伸びた 児 童 が 学 級 で 70%以上								
1	自らに自 信を持ち、 相手を思 いやる心 の育成		新 規	・自分の存在 に価値を見い だし、帰属感を 与えられる学 校づくり、学級 づくりを行う。	・教師-児童、児童-児童 の関係性の中で、行 いのよさを褒める活 動を取り入れ、児童 に良さの価値づけを 行い、自己肯定感・有 用感につなげる。	・「自分には良い ところがある。」 85%以上 ・「学校が楽し い。」85%以上								
			新 規	・進んであい さつをする学 校風土を醸成 する。	・あいさつ運動を行 う中で、進んであいさ つをする児童を褒め たり、評価したりする 機会をつくる。	・「自分から大き な声で元気よく、 気持ちのよいあい さつをしている。」 85%以上								
1	自らの生 活を律す る心の育 成と体力 の向上		新 規	・小学校年代 において育成 すべき体力向 上、基本的生活 習慣の確立に 取り組む。	・調整力に焦点化し て自らの目標を設定 し、達成感を味わせ る。 ・保護者の協力を得 て家庭での生活を見 直すとともに、メデ ィアコントロール習慣 の取組を継続する。	・反復横跳び(調 整力)の記録が伸 びた児童80%以 上。 ・家庭でのメディ ア使用の時間2時 間未満80%以上。								

1	教職員が意欲的に働くことができる環境づくり		新規	・教職員が意欲的に学校運営に参画する職場づくりを推進する。	・学年主任会等を活用し、学校運営面でより幅広く教職員からの意見を求めながら参画意識を醸成する。	・「仕事に意義とやりがいを感じている」教員90%以上 ・「自分の個性が認められている」教員80%以上								
5	保護者から信頼される学校づくり		継続	・保護者からの満足度の高い学校運営を行う。	・児童が「学校が楽しい」と感じる学びづくりを行う。	・「春日小の取組に満足している」肯定的回答90%以上								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。